

# 取り組む以上は

岐阜県では、春・夏・秋・冬(年末)の年四回にわたって交通安全運動が展開されています。運動期間中は、チラシやポスターによる交通安全の啓発や、取り締まりやパトロールの強化等がなされます。季節限定の運動ですが、一年に四回展開されるのは、人々に常に交通安全を意識してもらったためでしょう。これが年一回だったら大きな効果は期待できないかもしれません。人々の意識が低くなってきたところに展開することで、交通安全に対するモチベーションを上げていると言えますね。

学校でも、キャンペーンという名のもとに、いろいろな運動が展開されています。期間中は、啓発のための声かけや呼びかけをすると同時に、運動の結果を左下の写真のような表に書き込みます。そこには、独自の基準に照らし合わせて明らかになった結果が、毎日記入されています。

このように、結果を表に記入して掲示するのは、何のためでしょうか。競争意識を刺激することにより、取り組みが進むにつれて、より良い結果が生まれることを期待しているのでしょうか。それとも、純粹に取り組みの足跡として残すためでしょうか。

先の交通安全運動と比べてみると、明らかに違う点があります。それは展開されている回数です。定期的に年四回行われている交通安全運動と、そのときだけしか行われない学校のキャンペーンという違いです。

交通安全運動が年一回だと大きな効果が期待できないのと同じように、学校のキャンペーンもその時だけでは、状況の大きな改善は期待できないのではないのでしょうか。特に、キャンペーン後に、元の状態に戻る可能性は大ですね。かと言って、定期的に何回もキャンペーンを実施することはできません。生徒の皆さんだったら、どうしますか。職員の皆さんも、あなたの立場だったらどうしますか。

交通安全運動と学校のキャンペーンでは、目的が違っていると私は思います。キャンペーンは、その結果を踏まえて、自分たちの実態や課題を正確にとらえ、意識を高める話し合いや指導をして、その後の自分たちの生活の向上に結び付ける必要があります。打ち上げ花火で終わるキャンペーンで後に残るものは、結果を記した掲示物しかありません。意識の高まりは一時的にあっても、それは時間と共に消えていく可能性があるということです。

今日書いたことは、学級や学年のリーダーたち、生徒会執行部と専門委員長、そして、職員にもじっくりと考えてもらいたい内容です。取り組み期間中の成果がその後に生かされるかどうかが大切です。だからね。取り組み以上は、最大の効果を生み出したいもんね！

(十一月十七日 記)

## Let's walk!!

日にち	11/16 (火)	11/17 (水)	11/18 (木)	11/19 (金)	11/22 (月)
内容					
右側歩行	<input checked="" type="checkbox"/>				
ドスドス歩かない	<input checked="" type="checkbox"/>				
1段飛ばしなし	<input checked="" type="checkbox"/>				
全員達成: (花丸)	1~4人でできていない...○		5人以上でできていない...×		